



社団法人 日本助産婦会

# 宮城県支部だより

第2号

平成14年1月26日発行

## 年頭ごあいさつ

宮城県支部長 新田 双葉

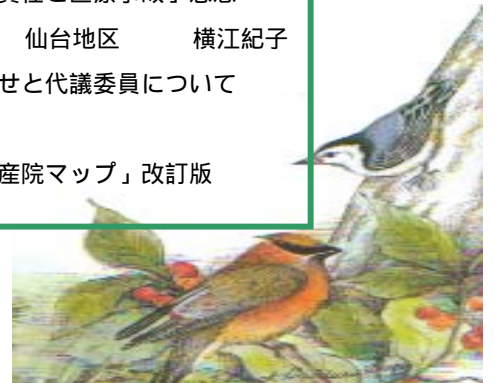
「助産婦会員の皆様、明けましてお目出とうございます。」昨年6月に支部長を引きうけましてから半年が過ぎました。役員、理事、会員の先生方のご協力に支えられなんとか予定通り、事業をこなしてまいりました。今後残された事業を遂行して平成14年度に繋げて参りたいと思っております。

今年度機関紙第2号を発行するに当っては会員皆様のご意見も取り入れております。皆様の発表の場として多めに活用下さいますようお願い申し上げます。どしどしお声を出してください。

さてこの6ヶ月の間に本部助産婦会との繋がりは、平成13年度第2回理事会が10月21日東京都助産婦会館で、47都道府県の支部長が集まり開催されました。議題は 1、定款改正問題 2、会館貸借問題、3、男性助産師導入問題が議論されました。どの問題も今の所、継続となっています。

その他は種々の講習会セミナーの開催紹介(雑誌「助産婦」に掲載されている)、子育て女性健康支援センターの現状報告一覧表、医療事故発生の報告とコメント、会長・副会長・監事の推薦問題があります。実際21日の理事会で一度お会いしてお声を聞いただけでは推薦することは、難しい問題です。北海道・東北ブロック講習会でより顔見

- 1、ごあいさつ 支部長 新田双葉
- 2、東北ブロック講習会に参加して 書記 田村雪子
- 3、会員活動紹介 石巻地区 松田美由紀  
仙台地区 武者文子
- 4、学習会「助産婦の責任と医療事故」感想 仙台地区 横江紀子
- 5、全国総会のお知らせと代議委員について
- 6、会長表彰者推薦
- 7、書籍紹介「全国助産院マップ」改訂版



知りの先生方のお声も聞きながら記入して送りました。実際は5月の横浜での総会代議員の先生方の選挙で決定する訳です。

次に宮城県では、子育て・女性健康支援センター設立に向けて資金の調達から始めております。計画書を提出して申請しましたが、補助金が下りるか審査中の状況です。3月に発表があります。今、ドキドキというところです。何の事業を行うにも資金が必要ですので調達に頭を悩ませているのが現状です。

仙台市市民活動サポートセンターの会員登録(代表、田村雪子氏)をして会場の確保に漕ぎつけました。度々利用させて貰い安価な会場費で助かっております。以上簡単にご報告いたしました。

現在登録票をご記入いただき本部会費・支部会費の徴収を会計伊藤祝子先生ががんばっております。是非ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

今年が佳い年でありますように年頭にあって祈念いたしまして、ご挨拶とします。

## 2、平成13年度東北ブロック大会参加録

書記 田村 雪子



(写真はイメージです。本文とは関係ありません。)

初秋の候、秋田に行って参りました。9月13日～14日。参加総数東北6県から100名余り。

宮城からは支部長はじめ、戸村、伊藤(祝)、青木、片桐、照井、斉藤、小原、須江、田村が行って参りました。

会場の秋田温泉"さとみ"は、新幹線秋田駅より、バスにて20分。静寂にて厳かに待っていてくれた。受付、会場内の、グリーンに統一されたカッターシャツ姿の、秋田県支部の方々の気配りが嬉しい。

内容は、総会資料をご覧頂くこととし、当方が印象深く感じたことを書かせて頂く。

助産婦会石塚会長から、

「助産婦にとって、厳しい時代であるが、母子保健充実のため、一致団結して頂きたい。また、救急助産を講習の中に取り入れて参りたい」ことなど、自立した助産婦へ向けてのメッセージを頂いた。

岩手大学看護学部教授の石井トク先生「助産婦の業務と責任」のご講演は、日頃の業務に対する法的責任を認識させ、彷彿させるものがあった。

また、"命のおうえん舎"の先生による性教育の実践報告は、会場で活気があふれた。文化史の研究者であられる佐藤金勇氏の助産婦聴きご講演は、ホットな空間であった。

懇親会では、石塚会長の気さくなお人柄に触れさせて頂き、あらためて、益々の会の活性化を祈った。

帰路では、須江、田村で、敬愛致す石井トク先生とタクシーで同乗致す光栄に預かり、恐縮している。新幹線では、青森支部、岩手支部の先生とご一緒出来、種種ご教示頂き、感謝している。



会場となった  
さとみ温泉の  
夜景

宮城県での開催年度に向けて、気を引き締めたいところである。

## 3、会員活動紹介

### 1) 石巻健康まつり

石巻地区 松田 美由紀

石巻地区では、毎年石巻健康まつりに参加しています。育児相談や沐浴指導などをメインに出展していました。

一昨年からプール使用が可能になったため、マタニティスイミングをとり上げています。 昨年は9月30日、日曜日が開催日でした。当日は地元の3箇所のスイミングスクールからコーチのお手伝いをいただき、助産婦が指導しました。

問診に始まり、オリエンテーション、入水となります。30分の時間でウォーキングをしたり、ゆっくり泳いだり、リラックスをしたり。スイミングが初めてという妊婦さんはいなかったため、スムーズに進行しました。



泳いだ後の採暖室では、妊婦さんの質問に答えたり、先輩助産婦のお産にまつわるエピソードに感心したり・・・とてもよいコミュニケーションの場となりました。

スイミング後のアンケートには水の中のリラックスはとても気持ちがよかった、と最後に水の中で音楽を聞きながらの全身リラックスが好評でした。

## 2) 開業3年目になりました

仙台地区 武者 文子



「まんまはうす」は、地下鉄長町駅近くに助産婦二名で開設している母乳育児相談室です。二人とも、同じ産婦人科医院に勤務しており、退院後の母乳育児のフォローを続けていきたいという思いから開業に踏み切りました。開業への決断は、申し送り前の雑談の中から、わずか2分で決めてしまいました。その時の会話は、「退院後ももっとちゃんとおっぱいみてあげたいねー」「そうだよねー」「ねえ、二人でやればできるよ。開業しようよ。」「やるかー!」「うん、やろう!!」というような内容でした。それからバタバタとわずか一ヶ月で、相談室の場所を探し、契約。保健所への届け。どんなスタイルでやっていかなど、たくさんの事を話し合い、決めて、実行していきました。私達の相談のスタイルとしては、乳房のマッサージの手技にはこだわらない。ユニセフ・WHOの「母乳育児を成功させるための十か条」をベースにする。完全予約制で、一組に30分は時間をとる。ということです。来所される方の相談内容としては、母乳不足や不足感、乳腺のつまり、乳腺炎、分泌過多、赤ちゃんの直乳困難、卒乳の相談などです。今までで350人程のお母さん達の相談にのってきましたが、前回と違うトラブルで何回か通って来られるかたもいらっしゃいます。

病院では経験できなかったこととしては、母乳を与えている期間のお母さんと赤ちゃんをずっとみることができるといことです。そのため、離乳食のこと、赤ちゃんの歯のこと、発育・発達のこと、時には家族のことなど、相談内容は多岐にわたりますので、いろいろな勉強会への参加はかせません。私達でフォローできないと思われるケースは(例えばD・Vや離婚の相談など)他のネットワークへ紹介する事もあります。また、一年前よりホームページを開設し、まんまはうすの紹介の他、育児情報や、勉強会で学んだ事なども紹介しています。最近では、インターネットで検索して相談にいらっしゃる方や、相談後の様子などをEメールで伝えてくれる方もいます。

そして、私の最大の関心事は、助産婦学校の閉校などによる助産婦養成の縮小と、男性助産婦問題です。助産婦と



しての役割をもっともっと世間にアピールして、ちゃんと考えて実行していかないと、助産婦という職業は、もう何年後にはなくなってしまうのではないかと思います。(実際、4月より私達は助産師です。)もっともっと助産婦としての存在感を出していけたらと思います。皆さん、一緒にがんばりましょう。

## 4、学習会参加感想 平成13年12月1日

### 「助産婦の責任と医療事故」

仙台地区 横江紀子

病院という大きな組織に守られていれば、事故がおきても個人を守ってくれるという時代は、終わったんだなあ最近思います。

分娩は、正常に終わることが当たり前という、本人や家族の思いが大きいです。そのため、少し正常な



経過から外れると、なんで?という医療従事者へ対する不信感の思いをあらわにする方がいます。

そんなお産にかかわる助産婦の責任は重いです。時々その責任の重さにつぶされそうになります。

事故を起こしたらどうしようではなく、事故を起こさないためにできること、考えていなくてはと気の引き締まる思いでした。

(宮城社会保険病院 産婦人科)

## 5、全国総会のご案内

支部会員100名につき、代議員1名選出のとりきめにより代議員は、1月26日の役員会で、小原京子さんに決定いたしました。

### 平成14年度日本助産婦会通常総会

第58回日本助産婦学会

期日；平成14年5月13日（月）～14日（火）

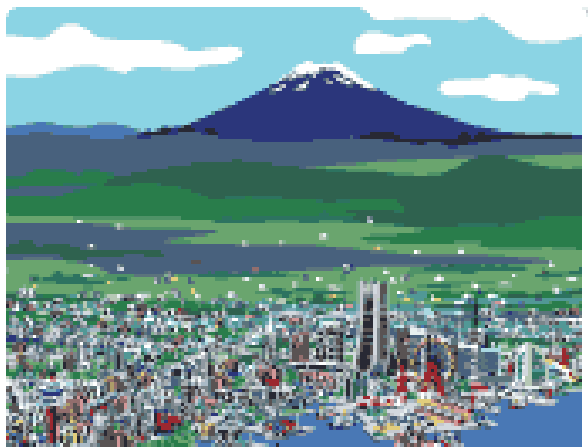
会場；パシフィコ横浜会議センター メインホール

主催；社団法人日本助産婦会

大会参加費；9000円 助産婦学生 4000円

申し込み締切日；3月20日助産婦会本部必着

申し込み方法；各地区長を通して、支部長へ



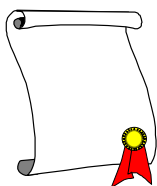
75周年の記念の大会です。どうぞ多数ご参加ください。  
JTBによる、宿泊の手配や、現地観光オプションの案内も届いております。詳しい内容は各地区長か、支部長、または下記JTB担当者までお問い合わせ下さい。

JTB団体旅行横浜支店 営業4課

横浜コンベンション事務局 045-316-4602

FAX 045-316-5703

## 6、会長表彰推薦者



宮城県支部からは、長年会のためにご貢献下さった会員さんの中から、今年度は、青木喜美代さんを推薦しております。

## 7、全国助産院マップ2002年度版 創刊！

サイズもB5、411ページと大きくなって、読み応えのある4度目の改訂版です。索引を数えて見ましたら、620の開業施設や開業助産婦が掲載されていました。

全国の子育て女性健康支援センターの拠点一覧や、お母さんの自主グループ、助産婦ネットワークのリストもあって、一層充実しています。

里帰りや転居なさる妊産婦さんのために、ぜひお手元に1冊おいてはいかがでしょうか。沢山のイラストや写真が助産婦心をくすぐります。

一般書店では購入できません。助産婦会本部に直接ご注文ください。購入方法は下記の通りです。



郵便為替で「助産院マップ」と明記し送金する。

(社)日本助産婦会

00120-0-169704

一部定価 2500円(税込み)

送料 450円 合計 2950円

✳ 2冊以上注文の場合は送料が変わるので本部にお問い合わせ下さい。

(社)日本助産婦会 03-3262-9910

## 勉強会のごあんない



期日 **6月15日(土)**  
内容 **平山宗宏先生**

### ご講演会

題 未定

会場 仙台市市民活動サポートセンター

資料代 500円

対象 子育て支援に従事する専門家 100人位

主催 すくすく子育て研究会代表 千葉 良

申し込み 助産婦会仙台地区長 青木喜美代

022-229-5077

または、070 5472 9085

上記研究会事務局まで

### 編集後期

2001年は、アメリカの同時多発テロ事件に揺れましたが、愛子さま誕生で仙山線愛子駅もフィーバー、明るいニュースでメとなった1年でした。

命の重みを日々、直に感じている者の1人として、どうしてこうも命の扱いに違いがあるのか、怖れと怒りと悲しさがごっちゃになった感情がこみ上げます。アフガンの子供も女性も貿易センタービル



で亡くなった方たちも、皆、待ち望まれて産まれてきた大事な命。多くの愛と手をかけられ育ち暮らしてきたはず。難しい理屈は様々あるのですが、とにかく産声を喜ぶこの気持ちを、社会に伝えたい。一体、どうしたら伝わるのだろう？今向き合う、1つの命を慈しむ事、助産婦には世界の根っこでとても重要な任務がある！と大仰な事を考えさせられた2002年の始まりです。

身近なところでは「助産師」への名称変更が国会を通過しました。男性の導入は見送られましたが、4月から、私達は「助産師」です。この呼び名、じっくり来るには時間がかかりそうですが、さて、皆様はいかがでしょう？

ヨチヨチ歩きの「支部だより」ですが、皆様のご意見、ご投稿をお待ちしております。(伊藤)



### 支部だよりについての問合せ・投稿先\*\*

〒981-3131

仙台市泉区七北田字東裏46-1 (伊藤)

022-772-5960

Fax 022-772-5961

Eメール cyr02323@nifty.ne.jp

### \*\*日本助産婦会 宮城県支部 \*\*

〒985-0822

宮城郡七ヶ浜町汐見台南1丁目1-5

新田 双葉

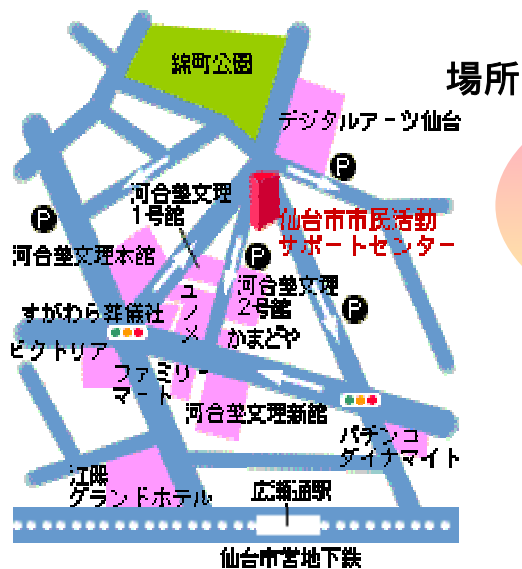
Fax 022-357-6562



## 役員会便り No 2

### 1、 事務所を確保しました

子育て、女性健康支援センターin みやぎ開設に向けて、事務所を確保致しました。場所は仙台市本町にあり、市民活動をサポートしてくれる公的な施設内です。公募が多く、提出書類が多く、加えて2倍の倍率でしたが、クリアしました。2人入ればいっぱいの狭い事務所ですが、共有フロアが多く、電話回線もあり、冷暖房完備、印刷格安。3年という、期間限定です。その間に実績を積み上げて、参りたいところです。



場所

〒980 0014

仙台市青葉区本町 2 8 15

仙台市市民活動サポートセンター内

郵便受け134番

事務所ブース

子育て、女性健康支援センターin みやぎ

小会議には、活用可能です。気軽にお立ち寄り頂き、ご覧頂き、ご意見など頂戴頂ければと存じます。

### 2、子育て、女性健康支援センターin みやぎ登録票配布について

今回登録票をさっそく皆様にお届け致します。ご覧頂き、出来るだけ多くの方にご協力頂けます様お願い致します次第です。

その結果を役員会で検討いたし、開設曜日、相談員などの調節を致したいと思ひます。

ご返送は、ご協力頂ける方が個々に事務所に郵送、または、支部長、書記まで、FAXでご返事頂く形と致します。

郵送先 上記支援センター内事務所  
FAX 支部長 022 357 6562  
書記 022 257 7610  
締め切り 2月末日

書記 田村 雪子